

# 『人と自然のハーモニータウンあしきた』のプロローグ

～芦北町に完成した星座観測展望所は夢の出発点～



芦北には海がある。  
芦北には山がある。  
そして、美しい星空がある…。

日本で4番目に美しい星空がある町、  
芦北にまた一つ、星が瞬いた。

伏木氏地区という小さな集落、  
『猫ん窪』と呼ばれる高台に星座観測展望所が  
完成した。

寝転がって星を見ていた天文ファンたちが  
今はその広場で星を見ながら、遙かな宇宙に  
思いをはせ、夢を語り合う。



伏木氏地区の人々が星に願いをかけた夢  
『星が輝くまち・あしきた』が大きな一歩を踏み出した。  
地域の人々が「星」で結びつく、  
町が力を貸して、また夢が広がる。  
ここに本当の町づくりがある…。



伏木氏地区 山本前区長



伏木氏地区 中山区長

## 全国で4番目に星の観測がしやすい伏木氏地区 星から生まれた地域づくり

葦北郡芦北町といえば、うたせ船の白い帆が海原に映える美しい不知火海、緑豊かな山、人気のある新旧の温泉、古くから交通の要衝として栄えた佐敷、その貴重な歴史を残す佐敷城跡など、自然と歴史に育まれた町として知られる。最近では、芦北海浜総合公園のニューアトラクションスポーツ「ゾーブ」も人気。海も山も楽しめ注目を集めている芦北町です。

そんな芦北町にもう一つ、星が瞬いた。今年5月、芦北町伏木氏（ふしき）地区に『星座観測展望所』が完成した。芦北町に星の観測所？このニュースに驚いた地元の人も少なくなかったに違いない。それは『星が輝くまち・あしきた』として名乗りを上げた瞬間でもあった。

『星が輝くまち・あしきた』はどこからどのように生まれ、星座観測展望所はどんな経緯で完成したのだろう。

実は、この展望所の整備は地区の人々の願いと行政の地域づくりを支える思いが一致して完成した『星が輝くまち・あしきた』へのプロローグなのである。

そこには地域づくりの原点があり、地域の結びつきや大切な夢を与えてくれる人々の情熱があった。

まずは、芦北町役場を訪ね、芦北町伏木氏の星座観測展望所完成までの経緯について企画財政課の企画統計係長・園川民夫さんにお話をうかがった。

取材班 Q：芦北町に星座観測展望所が完成したのに驚きました。

その経緯について、教えてください。

園川さん A：芦北町には64の行政区があるのですが、地区の方の要望に町が応える「芦北町まちづくり推進総合支援事業」というのがあるんです。平成14年度の事業計画として、伏木氏地区の皆さんが竹崎町長へ陳情されたのが「星座観測所をつくって欲しい」と



芝生が敷き詰められた観測展望所下段

いうものでした。前区長の山本正月さんは事業計画書に「住民がファミリー感覚で生活できる伏木氏地区」と書かれ、「今、猫の窪で〈芦北星を見る会〉の人たちが星を観測しているが、道路で危ないのでぜひ観測所を」というものでした。

その時、環境省の全国星座継続観察にて伏木氏地区を全国で4番目に星が観測しやすい場所に認定したことを知ったんです。

夜間の透明度が日本で4番目、これには驚きましたね。

山本前区長さんと一緒に環境省にデータを送られた芦北星を見る会の中山幹男さんが来られ、説明されたんです。

取材班 Q：なるほど、それで整備が始まったんですね。

園川さん A：町づくり推進総合支援事業の費用は、地区で50万円が限度なんです。山本前区長さんの熱意、伏木氏地区の皆さん、星を見る会の活動を見て、「星」で地域が結びついている、子ども達に夢を与えている…。つまり、「星で町づくりができること」を認識しました。

それで、地域のコミュニティ助成事業（宝くじ益金活用事業）を受けて、総額約700万円で星座観測展望所の整備が実施されました。

5月の落成式は、地域連携の意味もあり、式次第、段取りまで伏木氏の方が手作りでやっていたいただきました。

取材班 Q：伏木氏の取り組みを見ての感想と今後について

園川さん A：この様な地域住民皆さんの関わりが地域づくりではないでしょうか。

何よりも伏木氏の人たちが「星がきれい」という自信を持っているということです。これが地域の連携を生み出します。

星の好きな人が集まってこそ、長く続くもの。

これから、展望所を伏木氏の皆さん始め、町民の多くの方に自由に使っていただきたいと思います。

行政の皆さんも、伏木氏の人々の星への思いにふれたことで最初の驚きが感動に変わっていったのだろう。山本前区長さんが星座観測展望所整備に向けて、汗を流してとりまとめられた熱意、それを受け入れた芦北町の決断が『星が輝くまち・あしきた』をスタートさせたのである。

### ■伏木氏（ふしき）地区とはこんな所…

田浦町との境に位置した山間の集落で20世帯55人が暮らす。

地名の由来は弘法大師が「こんな所に家があるのが不思議」と言ったという説や中世土豪の伏木氏が居住したことから「ふしきし」と呼ばれ、語尾の「し」が落ちて漢字だけが残ったと言う説もある。旧薩摩街道の佐敷越えルートができる以前、古代から中世にかけての主要道が伏木氏を通過していたと言われ、星座観測展望所のある「猫の窪」付近には火縄銃を練習した「火矢うち場」跡がある。

## 昼間も絶景！ ここが星座観測展望所

取材班は園川さんの案内で伏木氏の星座観測展望所に向かう。芦北町の中心部から車で山間の道を15分程行くと、伏木氏地区の集落に入った。20世帯の静かな集落の中に、ちょっと変わった家がある。☆の絵が壁に描かれた家だ。

「ここが星のおじさん、中山さんの家です。」後で訪ねることにしよう。

伏木氏の集落を過ぎ、数百メートル行くと高台の猫の窪に到着。標高約400メートルの位置に星座観測展望所があった。道路を挟み、天体観測広場とコミュニティ広場（駐車場を兼ねる）からなる展望所は広さ約1700㎡

まずは、その眺望のすばらしさ！星の見えない昼間でも、天草諸島、田浦町の御立岬、目の前に広がるその眺めだけでも、十分価値がある。

雑木林だったとは思えないほど立派に整備された展望所では、子供たちを中心に星の観測会が開かれ、星座や彗星、流星を眺めては天体の不思議に魅了されている。この日はあいにくの曇り空。観測会は中止になったが、その絶景が芦北の新名所となることを確信した。さらに、展望所で運



星座観測展望所で説明する園川さん（左）と山本前区長さん（中）



良く伏木氏地区の前区長・山本正月さんと会うことができた。

取材班 Q：立派な展望所ですね。

山本さん A：おかげで立派な展望所ができました。

観測会の人たちが道路に寝て、星を見てみたので危ないと思ってですね…。

落成の日、お祝いに伏木氏に伝わる「棒踊り」を披露しましたが、地区がまとまって何かをするのは良かこつです。



展望所から田浦町方面を見た眺望

山本前区長さんは言葉少なだが、展望所完成に大満足されていた。歴史ある伏木氏地区や芦北町の活性化に向けて今後も活躍されることだろう。

## 観測会の主人公 星のおじさんに会った！ 『星が輝くまち・あしきた』の夢を語る

星座観測展望所の今後の活用を担うのは、星の観測会の主人公、伏木地区の現区長の中山幹男さん（59歳）である。観測会で子供たちに星の話聞かせ、望遠鏡を持ち込んでの観測もしている。マスコミで「星のおじさん」として幾度も取り上げられ、ちょっと困り気味の中山さんは今年4月、山本さんから区長を受け継いだ。もちろん、星座観測展望所のキッカケを作った人、環境省に伏木氏で観測したデータを送った天文マニアである。

中山さんの星への情熱は『星が輝くまち・あしきた』へと夢を広げ、子供たちに受け継がれようとしている。ひょっとすると『星が輝くまち・あしきた』は中山さんが宇宙に魅せられた子供の時、もう幕を開けていたのかもしれない。仕事の合間、展望所近くの採石場（株式会社 江口興産）に勤務する中山さんを訪ねた。照れ笑いしながら話す中山さん、星の話、これからの夢を話し出すと声が大きくなり、笑顔が輝いた。



星への情熱を語る中山さん

取材班 Q：星のおじさんとして、引っぱりだこですね。

中山さん A：はい、大変でした。会社の社長さんが理解があるので助かってます。  
私はただ星を見るのが好きなだけなのに…。  
こっちが驚いていますよ。

取材班 Q：念願の星座観測展望所ができましたね。

中山さん A：芦北星を見る会の観測会に来る子供たちに星の話をしてます。観測会に来るのは今まで4～5人だったのですが、星座観測展望所ができてからは30人くらいの人 comes。嬉しいですね。  
元々、何もない道路でしたから、子供たちが来て、もっと広ければいいのに、広場があればいいのにと感じてました。  
山本前区長さんや役場の皆さんの理解があってできた展望所です。



取材班 Q：そもそも中山さんはいつ頃から天文ファンに？

中山さん A：子供の頃から星を見るのが好きでした。星を見ていて不思議に思ったことを調べていく。たとえば、赤い星があるので図書館へ行って本で調べてみる…一つ分かるとまた面白くなる。  
でも、望遠鏡を買うどころか、兄弟が下に4人いたので盆も正月もなしに働きました。

取材班 Q：星は一人で見ていたのですか？

中山さん A：一人で見ていました。実は、猫の窪は結婚する前、ギターを買って練習していた

場所なんです。まだ弾けないので恥ずかしいから一人で弾いていたんです。星を見ながら…。

猫の窟から見る星はきれいかなあ、そう思っていました。



取材班 Q：望遠鏡が欲しかったのでは？

中山さん A：欲しかったですね。30年位前に小さい望遠鏡を買ったのが最初です。それからいろいろ買いました。

一式90万円の望遠鏡からその3倍するのやら…。

最初は家族にも隠していましたが、子供の頃からの夢だし、どうしてもいい望遠鏡が欲しかったので、家族に打ち明けたら、思わぬほど理解があったんですよ。でもね、買った望遠鏡は、観測会に来る子供たちにやってしまうんですよ。

取材班 Q：伏木氏が全国で4番目に星の観測しやすい場所と認定された時は？

中山さん A：芦北星を見る会の渋谷さんと2人でデータを作成して送ったんです。ビックリしましたが、本当は日本一だと思っていたんです。自信があったんですよ。

でも、それで伏木氏の人、芦北の人がこんな星のきれいな所があるんだという自慢できる場所ができたんです。

それが地区の活性化につながればいいと思います。

中山さんのただならぬ天文ファンぶりに圧倒され、ぜひ、自宅の望遠鏡を見せていただきたいとお願いをし、夕方自宅を訪ねることになった。例の☆の絵が描かれた自宅である。



☆が描かれた自宅

夕方、中山さんの自宅に集まってきた子供たち。中山さんの観測会に参加している子供もいる。中山さんの自宅のガレージの2階に設けられた☆の部屋の屋根にはレールが取り付けられている。一体、何だろう？

中山さんが手回し式ハンドルを回すと、ゆっくりと右に屋根が開いた。

そこは、中山さんが子供の頃から抱いてきた宇宙への憧れがいっぱい詰まった〈天文台〉だった…。



開閉式屋根を開ける中山さん

中山さんの〈天文台〉には、20cmの反射望遠鏡が取り付けられていた。

伏木氏の子供たちを呼んで望遠鏡をのぞきながら星の話をすると、子供たちが生き生きしてくるという。

取材班 Q：中山さんの夢は？

中山さん A：星座観測展望所で星を見ている子供たちの中から天文学者が出て欲しいですね。

星座観測展望所は〈夢〉に一步近づいたということ、私の最大の夢は、あの場所に天文台をつくることです。

中山さんは、嬉しそうに「夢は天文台をつくること」と話す。星座観測展望所の完成は夢の出発点、これから『星が輝くまち・あしきた』は、展望所から見える美しい星空に感動した人々から広がっていくだろう。そして、いつか「星を観に芦北へ行こう」が合言葉になる日が来るだろう。

町づくりはイベントや仕掛けがなくても、美しい星空があればできることを証明してくれるに違いない。

